このままで、リニア中央新幹線は 2027年に予定通り開業できるのか？

5月30日、金子社長は記者会見で、リニア中央新幹線南アルプストンネルの本体工事で静岡工区が未着工であることに関し「この状態が続けば、開業時期に影響を及ぼしかねない」と、2027年を目指す開業時期が遅れる可能性に言及したことが、マスコミ等で報じられた。また「遅れを後の工程で取り戻すことが難しくなりつつある」と強調する一方、静岡県環境保全連絡会議の質問項目に「だいたい答え終わった」との認識を示したことも報じられている。

会社はこの間、「プロジェクトの完遂に向けて着実に取り組んでいく」としてきているが、進捗状況について危惧を抱いていることを社長自らが公の場で発言していることから、J R 東海労は、この件に関して労働組合に説明すべきであると思ひ、下記のとおり会社に申し入れをして会社に団体交渉の開催を求めましたが、残念ながら6月19日に窓口回答となりました。

申し入れの内容と回答については、以下の通りです。

1. 「開業時期に影響を及ぼしかねない」と発言した根拠を明らかにすること。

2027年開業というのは、初めから余裕のある工程ではなく、非常にタイトな工程である。そのため、工期が長くかかり、難工事が予想される箇所から早く契約を行い、工事に着手するという考え方で進めてきている。

具体的には、品川・名古屋の両ターミナルと南アルプストンネルの工事が特に難しく、時間のかかる工事である。

南アルプストンネルは、全体を山梨・静岡・長野の3つの工区に分けて進めているが、静岡工区は、他の工区に比べて進捗が遅れており、これを後の工程にで取り戻すことは難しくなりつつある。更に、この状況が続けば、開業の時期に影響を及ぼしかねないと懸念している。

2027年開業予定というのは、余裕のない厳しい工程だが、全力を挙

げて取り組んでいく。

2. 会社はこの間、組合との経営協議会等で「地元の方々に理解を深めてもらえるよう努めてきている」「丁寧に説明している」としているが、金子社長の発言に対して静岡県環境部側が「地元の懸念が解消するよう、誠意ある対応を」とコメントしたことが報じられている。会社の見解を明らかにすること。

これまで通り、誠実に対応する。

以 上